

2020年の生乳生産量を1.4%増加、乳製品貿易量を1.5%増加に上方修正

FAO「食料アウトルック」、乳製品貿易のコロナ前水準を予測

国連食糧農業機関(FAO)は、世界の農産物需給などに関する「食料アウトルック(Food Outlook)」報告書を毎年2回公表している。11月12日に公表された最新号では、2020年の生乳生産量を1.4%増の予測に上方修正し、乳製品貿易量については、緩やかな石油価格上昇や中国などの堅調な需要に支えられて過去5年間の平均成長率とほぼ同じ前年比1.5%増の7800万トン(生乳換算)と予測した。同日出されたニュースリリースでは「開発途上国が世界の食料貿易を後押し」する中で、新型コロナの世界的流行の時期でも食料の世界貿易は非常に強靭性があり、開発途上国の一部は輸出収入を増加させたとの分析を示した。報告書のうち乳・乳製品の市場動向及びニュースリリースの概要を以下に紹介する。

【食料アウトルック】(*1)

乳・乳製品の市場動向

新型コロナの影響で市場に混乱が起きたにも関わらず、2020年の世界の生乳生産量は前回の予想に反して前年比1.4%増の8億6000万トンに達すると予測される。この前向きな見通しは、主要な生乳生産国、特にインドでの生産量が、好ましい季節風に加えて、物流上の障害がある中でも村落酪農協同組合ネットワークによる集乳の強靭性に支えられて、増加するという見通しを反映している。EUと米国では、産乳量の増加や政府支援に支えられ、生産者の粗利益

が安定。また、中国とロシアでは大規模酪農場での乳牛頭数増加による生産量増加が予測され、オセアニアでも好天にともなう生乳量増加が予想されている。一方、好天にもかかわらず、ブラジルでは景気縮小による内需減少のため生産量が減少する可能性がある。

2020年の世界の乳製品貿易は、過去5年間の平均成長率とほぼ同じ前年比1.5%増の7800万トン(生乳換算)に成長すると予測される。この増加は主に、緩やかな原油価格回復を反映したアルジェリア、サウジアラビア、ナイジェリアによる最近の輸入注文の増加に加え、経済

世界の乳・乳製品市場の概観

世界総量	2018年	2019年 (推定)	2020年(予測)		増減(%): 2020年/ 2019年
			7月	11月	
総生乳生産量(百万t)	840.3	848.0	858.9	860.1	1.4
総貿易量(生乳換算百万t)	76	76.8	73.6	77.9	1.5
1人当たり消費量					
世界(kg/年)	111.3	111.2	111.4	111.5	0.3
貿易のシェア(%)	9.0	9.1	8.6	9.1	0.0
FAO乳製品価格指数 (2014~2016年=100)	2018年	2019年		2020年1 ~10月	増減(%): 2020年1~ 10月/2019 年1~10月
	107	103		101	-2.0

活動の回復にともなう中国の堅調な輸入需要に起因している。オーストラリア、コロンビア、ロシアも、内需の高まりに合わせて輸入を拡大させる可能性がある。対照的に、フィリピン、メキシコ、日本などでは、市場の混乱や景気後退にともない輸入の急激な減少が予想される。高水準の輸出向け乳製品は、米国、アルゼンチン、ベラルーシ、EU からの出荷を促す主な価格要因となっており、輸入国での蓄積在庫と景気後退は、ニュージーランド、インド、トルコからの輸出を抑制する可能性がある。

FAO 乳製品価格指数によると、国際乳製品価格は、主に物流上のボトルネック、外食産業の売上減少、市場の不確実性による世界的な輸入需要の低迷により、2020年2月から5月にかけて下落した。しかしその後、物価は上昇し始め、10月には中国の堅調な輸入需要、一部の産油国での輸入の回復、ヨーロッパの内需増加に支えられて新型コロナの世界的流行前の水準を初めてわずかに上回った。世界の需給バランスによって脱脂粉乳の価格が最も上昇し、次にバター、全粉乳、チーズが続いた。

【ニュースリリース】(*2)

開発途上国が世界の食料貿易を後押し

今回の FAO「食料アウトルック」報告書では、新型コロナの世界的流行の時期でも食料の世界貿易は非常に強靱性があり、開発途上国の一部は輸出収入を増加させることができたことや、各国の食品輸入法案と輸出収入の最近の動向に関する特集では、6月までに入手可能なデータによると、「完全ではないが強靱性があり新型コロナショックに強い世界食料市場を示唆している」と述べている。

「2020年の食品輸入額はおそらく2019年を超えるだろう。ただし、高付加価値食品から主食への顕著な変化がある」と FAO のエコノミストら

は分析している。その分析によると、開発途上国は、世界の食料貿易の流れを促す上で注目すべき「活力」を示している。開発途上国の2020年上半期の輸出収入は前年同期比4.6%増加した一方で、先進国の輸出収入は減少した。これは、飲料、魚、食肉の急激な落ち込みによって部分的に説明され、その需要は世界経済の縮小によって引き起こされた家計所得の減少に敏感に反応している。この期間に、世界の飲料の輸入は12%以上減少し、魚製品は10%以上減少したが、動植物油と油糧種子の貿易額は両方ともほぼ10%増加した。

農産物市場の動向

2020/2021年の穀物市場は供給量が豊富で、価格は小麦市場の引き締めや粗穀物と米への力強い国際需要に影響を受けているとこの報告書は述べている。

2020/2011年の油糧種子と派生品の世界生産量は、2020/2011年シーズンに新記録に達することが予測され、一方で需要の増加によって市場は引き締まるだろう。

2020年の世界の砂糖生産量は増加に転じており、今後新型コロナ関連の都市封鎖措置がさらに実施されるかどうかにもよるが、消費拡大のスピードは下回っている。

2020年の世界の食肉生産量は、貿易と需要の緩和が予測される中で、2年連続で減少することが予測されている。

2020年の世界の生乳生産量は増加が予測されており、主要な生乳生産国を見ると、特にインドの生産量は、好ましい季節風に加えて、依然、物流上の障害があるものの、村落酪農協同組合ネットワークによる集乳が順調にのびて増加。また、EU や米国における生産量も、政府による支援によって安定している。

水産業セクターでは、需要、物流、価格、労働および事業計画への新型コロナの世界的流

行の影響によって 2020 年は生産量が減少すると予測される。捕獲漁業の生産高はわずかに減少し、養殖漁業の生産高は近年でははじめて減少すると予測される。

この報告書は水産物市場への新型コロナの世界的流行の影響が、特に市場やレストランへの外出回避による新鮮な魚類への需要落ち込みが「広範囲の変化」を引き起こし、それが長期間持続して、製品イノベーション、より短いバリューチェーンや新しい流通チャネルを支えるだろうと述べている。

参考資料:

(*1)<http://www.fao.org/3/cb1993en/cb1993en.pdf> Food Outlook. November 2020. P. 7. Food and Agriculture Organization of the United Nations.

(*2)<http://www.fao.org/news/story/en/item/1329605/icode/> Developing countries buoy global food trade. Food and Agriculture Organization of the United Nations. (2020 年 11 月 16 日参照)

(Jミルク 国際グループ 新 光一郎)